

庁舎再配置の方針は

市長／当面は現状の3庁舎を有効に活用していきたい。



吉田幸一郎 議員

平成29年度施政方針の進捗状況と効果について

〈環境行政〉

議員 南有馬のごみ処理施設は、施設の延命化、新規建設、県央・南広域環境組合への全地区参加の、3案から方針を決定することだったが、方針は。

市長 将来的には、県央・南広域環境組合で処理する方向性で決定した。

議員 県央・南広域環境組合の方針はどうか。

市民生活部長 平成31年度で、現クリーンセンターの委託契約が切れる。32年度には、契約を結ばな

くてはならない。今後施設改修等を含め、どのようなごみ処理を行うか、30年度中には、組合で、一定の方向性を出すという聞いている。

議員 し尿処理施設、南有馬衛生センターの、リニューアル事業の進捗状況は。

市長 処理能力を、一日71㎏から130㎏に上げる。改修工事は、秋から着工し、平成33年3月までに完成する予定だ。

議員 29年4月より、有家から加津佐まで、ごみステーション収集を実施したが、効果はどうか。

市長 2週間に1回は、自宅近くのステーションに出せるようになり、ごみ出しの負担軽減が図られたと思う。

議員 7町には、各町に粗大ごみの収集場所があるが、深江町には無く、収集場所が必要だと思うが。

市民生活部長 8町で、公平化できるように、前向きに検討する。



〈観光交流の促進〉

議員 旧白木野小学校を整備し、創造性豊かな地域づくりと、観光客の増加を目指す、アートビルツジ・シラクノ拠点整備事業の進捗状況は。

教育次長 施設運営に関わるコーディネーターを配置する。芸術家が滞在し、作品の制作を行う活動は10月頃、工房やギャラリー活用、多様な教室、講座開始については、7月から。また、白木野地区の文化を伝える保存資料の整理・活用も計画している。

その他の質問

- ・企業誘致と創業支援
- ・南島原ブランド
- ・多様な農業の展開
- ・合併特例債の延長



南島原ブランド 島原手延べそうめん

世界文化遺産とは

市長／顕著な普遍的価値を有する文化遺産



山本 芳文 議員

世界遺産について

議員 基本に戻って伺う。世界文化遺産とは。行政がやるべきことは。市民に望むことは。

市長 世界遺産条約で学術的に「顕著な普遍的価値」を有すると認められた文化財であること。行政は構成資産を後世に伝えていくこと、その価値を高めていくことが責務。

市民は文化財に対する理解を深め、認識を深めることが大切。

議員 地域振興にキリシ

タン館設置、駐車場・トイレ整備、原城跡整備と色々振興保護事業を行ってきた。次は物産館という拠点整備計画5億1,300万円の説明を受けた。市民の盛り上がりが少ない。伝え方が欠けているのではないか。

市長 市民に認識を深めてもらう努力、機会が足りない思いである。

議員 原城跡の訪問客数を、どれくらいと推定しているか。

企画振興部長 年間14万7,000人と推計している。

議員 計画中の物産館のお土産品は、市内の農・水・商に、地元産品を利用した物を作らせ、優秀作品は優先的に納品できるとか、加えて現商品でもパッケージを替えると土産品になるような、企画展を行うことも、地元の盛り上がり方法でもあると思うが。

企画振興部長 地域物産開発支援事業・創業支援事業など、補助金も用意しているので問い合わせが欲しい。

副市長 なんらかの仕掛けをやっていききたい。

議員 合併前に、市の名称を公募した時には、「原城市」が多かった。世界遺産登録後に、平成も31年で終わる。書類の変更も生ずる。市名称変更は考えられないか。この件については市民もまだ、わだかまりを持っている者も多いが、原城に賭けてみないか。

市長 現在、南島原市の名称で事業展開をし、一応定着しているの、今は変更する考えはない。



原城跡